



## 仮置き場

片付けが下手な人がいます。わたしも何か使っても、元の場所に戻しません。それでも爪切りは、家族みんなでするので元の引き出しに戻しています。短気なわたしは、家人にもそれを求め、いつもの引き出しにないと怒ります。

他の品物は出しばなしなので、勝手な奴だと思われている事でしょう。

☆

そんなわたしなのに、片付けが出来ない子について相談を受けることがあります。「教科書はどこ、ハサミはどこ、所定の場所を決めると良いです」と応えています。

使った後、元の所に戻す習慣が身につかない子の場合、わたしのように、脳の機能的にこれが出来ない子もいて、一人では直せないのです。

あえて助言するなら、作業を始める時、お盆をそばにおいて、使い終わったものをその都度この『仮置き場』に積み上げる事をお勧めします。台所から食卓に茶碗などを運ぶ、あのお盆です。

作業が完全に終わったら、お盆をかかえて元の場所に配達して回って下さい。お盆まで置きっぱなしにはしてはいけません。

★

何かの作業、たとえば宿題を始める時、お盆を持ってきてテーブルに置きます。学習機を持っている子が多いと思いますが、片付けない子の机は物置になっているはずですから、みんなが使う食卓で宿題する事をお勧めするのです。『仮置き場』専用の箱などを購入するのは禁止です。

普段使っているお盆ならば、終わったら元に戻さないといけませんから都合が良いのですから。

☆☆

小説を読むとき、一気に読み通すことはないでしょう。何回か中断し、続きから読み始めます。

DVDのようなデジタルだと残りの分量が分かりませんが、本の残りは一目で分かります。

片付けも、同じように「終わり」の状態がはっきり分かることが大事です。

たとえば、電気の消し忘れも同じです。『明るくする目的』を持ってスイッチを入れる。明るくしたいから、入れ忘れは存在しません。

でも、使い終わってからは、『暗くする目的』を持たなければ、消しません。忘れていたのではなく、「暗くしよう」と思わないだけなのです。

お盆を使うのは、お母さんはそのお盆に茶碗をのせるという『目的』を持っていて、お母さんの目的を果たすために働きかける、つまり子どもに、邪魔な道具をしまわせるのです。しまわないとお母さんの目的が果たせないから、子どもを叱るわけです。

片付け上手になることは、次に何が起こるかを考える力や計画性につながっているのです。

